

令和五年度 施設長研修会

施設長研修会が、十二月十九日（火）静岡市駿河区のグランシップ会議ホール・風で行われました。子どもの最善の利益を保障し、かつ安定した施設運営・管理を行うため、施設長としての役割を再認識し資質向上を図ることを目的として研修が開催され、静岡県内より二四九名の施設長の皆さんが参加されました。研修では、四つの講義が行われました。

講義① 『実践から見る園小接続』

講師 静岡大学教育学部 教授 田宮縁氏
 保育園、こども園と小学校の接続について現場で実践したことを具体的な事例をふまえてご講義いただきました。遊びと学びでは、主体的・対話的で深い学びが重要、「何を学ぶか」だけではなく「どのように学ぶか」も重視しなければならぬなど、小学校との接続について大変参考になるお話を聞かせていただきました。

講義② 『保育人材養成会議活動報告』

講師 みそらこども園 園長 東山和樹氏
 全国保育協議会の保育人材養成会議で議論、研究をした経験や、ご自身の野球生活の中から体験したことなどを交えて、保育人材の確保についてご講義いただきました。自園での取り組みや実践したことで発見できたことなど



キャリアやすくお話しいただきました。職員が定着することによって、保育の質が向上し人材の確保につながるのとことでした。

講義③ 『「叱る依存」の理解と対応』

講師 臨床心理士・公認心理師 村中直人氏
 「叱る」という事を臨床心理士・公認心理士の観点よりお話いただきました。特に「叱る」という事が「叱る側のニーズを満たす側面を持つ」ことから「叱らずにはいられない」依存的状况に陥ってしまう事がある。そして子どもたちにとっては「叱られる」事により「防衛モード」と言う「人の学びや成長を妨げてしまう事」につながりかねないという事。またよく言われる「叱ると怒るは違う」とい

う事も子どもたちからすると一緒であるという事等、貴重なお話をいただきました。その予防に関しては「行動の前の環境整備や対応」をしっかりとし、予測力をきたえること。そして保育士が「叱る」を手放し、ワクワクした気持ちの「冒険モード」が子ども達を成長させると締めくくられました。

講義④ 会長講話 『保育情勢報告』

講師 静岡県保育連合会会長 土山雅之氏
 現在の保育における情勢報告をお話しいただきました。特に今現在、多くの方が注視している「こども誰でも通園制度」については細かくお話をいただき、今後の制度の進み方や、一時保育等との違いについても判り易く説明していただきました。

